

## 令和2年度 新型コロナウイルス対応事業 「夏休み思い出キャンプ～沢さ、いくべ!～」

- 1 趣 旨      新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、夏休みの短縮や活動の自粛により、外遊び・自然体験活動・人との関わりが不足しています。そこで花山青少年自然の家フィールドでの自然体験活動を通して、自然に親しみ、心身のリフレッシュを図ります。
- 2 主 催      独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 期 日      令和2年8月8日（土）～8月9日（日）1泊2日
- 5 参加者      ①参加対象 宮城県内小学校4～6年生の児童 20名程度  
②参加状況 参加総数41名（応募者数 213名）
- 6 場 所      国立花山青少年自然の家
- 7 企画・運営のポイント  
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、子供の自然体験活動の機会が減少した。そのため、短い夏休みではあるが、花山青少年自然の家で、のびのびと自然体験活動を味わえる事業を企画した。「沢活動の花山」と謳っているように水辺の活動をメインとして、2日間にわたり沢上流部と下流部での充実した活動が行えるようなプログラムとした。

### 8 日 程

日程(案)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8月8日(土)				花山青少年自然の家集合	開会	沢活動準備	沢活動<上流部>	(注文弁当)	沢活動<上流部>		本館へ戻る(帰所後片づけ)	ベッドメイク&自由時間	夕食	休憩	スウェーデントーチ&焼きマシュマロ	入浴・休憩	就寝準備・就寝
8月9日(日)		起床・洗面	インフォメーション	朝食	部屋清掃&点検	沢活動準備	沢活動<下流部>	(注文弁当)	沢活動<下流部>	本館へ戻る	着替え片づけ 帰りの準備	閉会	花山青少年自然の家解散	※天候等の影響により活動内容が変更する場合がございます。			

### 9 活動の内容について

【8月8日(土) 1日目】「沢活動～下流部～」 「火おこし体験」 「ソーシャルディスタンス焼きマシュマロ」





## 9 成果と課題

### (1) 参加者アンケート結果

満足：80.5% やや満足19.5% やや不満：0% 不満：0%

参加者41名に対して行ったアンケートの集計結果は、全員が満足群であった。この事業は総合的にみて非常に好評であったといえる。

### (2) 参加者の声

- ・班の仲間と協力して沢登りやオリエンテーションをして、みんなと協力して活動したことが楽しかった。
- ・沢や火おこしなど初めての体験をすることができた。
- ・いっぱい友達が作れて参加してよかった。
- ・はなれた土地の友達ができてよかった。
- ・沢に行ったことがなかったので初めて行って楽しかった。
- ・ロープの結び方や火おこしの方法などを学べた。
- ・できないことも、あきらめずに努力すれば結果はでるのだなと思った。
- ・たった2日だけだったのに友達もたくさんできた。また会いたい。
- ・ゲームなどチームワークが大切なことがわかった。
- ・友達ができるかとか色々心配だったけど、すぐに友達やスタッフさんと仲良くなれて良かった。

### (3) 成果

- ・20名程度の募集に213名からの応募があった。そのうち、地域や学年・男女比等を考慮し、44名を選考して実施した（キャンセル3名）。宿泊室の定員を半数にした宿泊、マスク着用・手洗いうがいを徹底して行い、新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、参加者全員が事故やケガなく1泊2日を終えることができた。
- ・コロナ禍での参加者募集であったが、募集人数に対して10倍もの応募があり、子どもたちの自然体験活動へのニーズがあるということがわかった。
- ・外出自粛の影響で、体を動かすことや自然体験の不足を感じている参加者にとって、自然の家でのびのびと体を動かしたことで、心身共にリフレッシュを図ることができた。
- ・参加地域も学年も異なる中、班での活動を共にすることにより参加者同士の仲を深めることができた。
- ・沢活動や火おこしなど、普段体験することのできない活動を通して参加者にとってかけがえのない夏の思い出を作ることができた。
- ・悪天候のため十分に沢活動を行うことができなかったが、各プログラムにストーリー性を持たせることでより深みのある活動を行うことができた。
- ・ボランティアを班付きのカウンセラーにすることで、ボランティアが主体的に子どもたちの支援に関わることができた。

### (4) 課題

- ・悪天候のため沢活動を十分に行うことができず、急遽室内での活動を行った。そのため急な変更点も多く参加者、スタッフへの周知が遅くなる場面もあり、事前に想定して準備を進めていく必要があった。
- ・参加申込が多かったため、参加者を44名まで増やしたが、感染症対策といった観点から今後は参加人数の精選について検討が必要である。